

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「ふたりのブラックプリンス ～進撃の暇人～」

テーマ:「超科学力を持ってそうな宇宙人なのに、どこかレトロな美少女」

キャラクター

50

ストーリー

40

テーマ(設定)

40

文章力

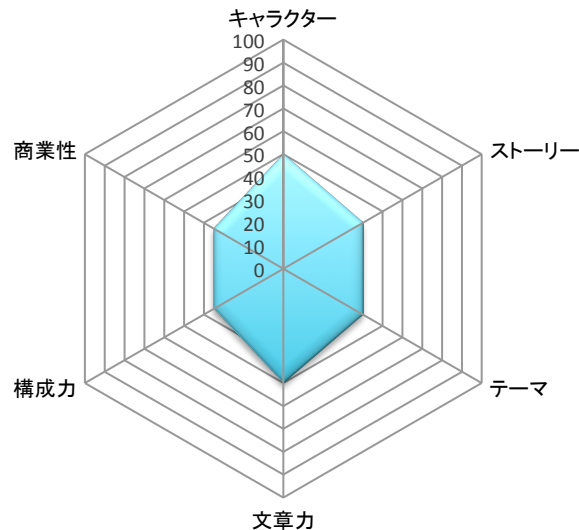
50

構成力

35

商業性

35



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・ドタバタコメディ路線だとしても、もう少し説明が欲しい。例えばなぜ姫がブラックプリンスと呼ばれているのか、なぜ姫はその名前に固執するのか、など。それが明瞭にされていないため、勝負の意味そのものが薄れて読者も「なんでこいつら戦ってるんだ……」とらけた状態に陥り兼ねない。
また「マammaマamma」の出現頻度が高過ぎるために、読者に「しつこい」と思われる可能性がある。「ひひーん」も同様。キャラクターの口癖はキャラの個性を強めるためのスパイスのようなものであるため、使うとしても作中5回程度が望ましい。スパイスのかけすぎは禁物。
・物語を進めることだけに集中して書かれており、読者が物語の流れについていけない場面が多い。もう少し物語の流れとは関係ない、登場人物たちが自然に発する言葉を入れることで自然な物語の流れが作れると考えられる。(例えば、かぐや姫が登場してすぐ「貴様が地球の『ブラックプリンス』か?」と勝負の話を持ち込もうとしている。しかし例えばここで「暑い! 地球という星はこんなにも暑いのか!」などと物語とは直接関係のない姫の言葉を入れれば無理矢理な物語の流れを緩和できるし、彼女が地球外から来たということを読み手に伝えることもできる)

合計加点ポイント 0

総得点: 250 / 600

B方式総合得点: 10417 点